

# 令和5年度 普天間飛行場跡地利用推進会議 議事概要

■日時：令和6年2月6日(火) 9:30～12:00

■会場：P's Square 5階-D

■次第：

1. 開会

2. 挨拶：沖縄県・宜野湾市

3. 報告及び意見交換

(1) 普天間飛行場跡地利用計画策定に向けたこれまでの経緯について

(2) 令和5年度の取組について

(3) 今後の取組について

4. 閉会

■出席者：

西田 睦 会長、池田 孝之 副会長、岸井 隆幸 氏、宮城 邦治 氏、名嘉座 元一 氏、  
真鳥 洋企 氏(下地氏代理)、福治 嗣夫 氏(石嶺氏代理、オンライン)、金城 克也 氏(オンライン)、  
津波古 透 氏(米須氏代理)、渡真利 哲 氏(天久氏代理、オンライン)、嘉陽 孝治 氏、宮園 峰子 氏、  
宮本 信弘 氏、金城 美奈子 氏(田中氏代理)、又吉 信一 氏(オンライン)、仲村 春雄 氏、  
大川 正彦 氏、猪鼻 信雄 氏(オブザーバー)、仲間 正文 氏(オブザーバー)  
事務局(沖縄県、宜野湾市、共同企業体)

■欠席者：

池田 榮史 氏、田名 毅 氏、金城 傑 氏、長堂 昌太郎 氏、名城 清 氏

## 議事(1) 普天間飛行場跡地利用計画策定に向けたこれまでの経緯について

### 【資料1】これまでの経緯と跡地利用計画策定までの流れ

～意見なし～

## 議事(2) 令和5年度の取組について

### 【資料2】行程計画の更新

■宮城委員：

・全体計画の取りまとめについては、推進会議や検討会議などで議論したことをまとめていくという認識でよいか。

■事務局(沖縄県)：

・令和9年まで全体計画を取りまとめるにあたっては、検討会議にて検討を重ねていく過程が重要であり、構成員の規模等も検討しつつ、しっかりと議論を重ねていきたいと考えている。また、推進会議は、情報発信を行うため、毎年度、検討会議と並走していく形で進めていきたいと考えている。

■宮城委員：

・基地返還の具体的な時期が見通せないため、状況に応じて全体計画の見直し等も行ってもらいたい。

■宮本委員：

・基地返還の時期がはっきりしていない中、どの時点を目処に検討を進める予定か。  
・(資料2 P8) 基地内の植生、歴史・景観資源の把握を令和5～6年度で実施する予定となっているが、本当に実現できるのか。また、どのような方法でできるのか教えてほしい。

■事務局（沖縄県）：

- ・1点目は、行程計画と返還時期との整合性をどのように考えているのかという指摘と受け止めている。防衛省がHPにて公表している情報によると、普天間飛行場の返還条件の一つとして、代替施設の建設があり、変更後の計画に基づく工事に着手してから12年後に引き渡される（提供手続完了）という工程がある。防衛省が公表している工程通りに、返還されると考えたとする、時間的猶予はあまりないと考えている。また、実際には立入調査ができていない等の進捗が得られていない状況もある中、これまで把握してきた課題を可能な限り解決していくスケジュールの目安として、令和9年度を意識して取り組んでいきたいと考えている。
- ・2点目については、デジタル技術等のシステムを活用し、例えば、昔と今の航空写真を比較することで高低差の変化を解析したり、植生の概ねの配置を重ね合わせたりすることで、地形や植生の変化を把握している状況である。

**【資料3】合意形成の促進及び情報発信**

■宮城委員：

- ・宜野湾市民、特に自治会や市内の各種団体への情報提供はどのようにしているか。

■事務局（宜野湾市）：

- ・市内の各種団体と昨年度から懇談の機会を設けており、本日まで出席の委員の方にもご参加いただいている。今後、このような機会を広げていきたいと考えている。

■宮城委員：

- ・教育機関へのアプローチは非常に重要であり、若い人の発想を積極的に計画の中に反映していけるような努力を我々大人たちがやるべきと感じた。非常に良い企画であると思う。

■名嘉座委員：

- ・教育との関係について、すでに大学等と連携を取って具体的に活動しているということであるが、資料2 P11に教育との連携の流れが示されている。令和9年度において、教育との連携による人材育成の取組とあるが具体的にどのようなことを計画の中に織り込んでいくのか。

■事務局（沖縄県）：

- ・教育との連携については、跡地利用計画に関して、小中学校や大学へのアプローチを実施しているが、高校に対するアプローチができてない。返還後の跡地利用が開始される頃の働き盛りの世代に、どのような環境であれば働きやすいか等、今の学生たちに関心を持ってもらいながら、少しでも意識付けできないかと考えている。

**【資料4】海外事例調査**

～意見なし～

**議事（3）今後の取組について**

**【資料5】今後の取組について**

～意見なし～

＜ 休 憩 ＞

**意見交換**

■岸井委員：

- ・これからの進め方に関して、3点お願いしたい。
- ・1点目は、基地内の基礎的な情報、地質条件、貴重な生物資源、文化財等の状況を早期にしっかりと

把握する必要がある。国、県、市をあげて協議し、早期に立入調査ができるようにしていただきたい。

- ・ 2点目は、2027年に全体計画の取りまとめを行うとのことだが、計画に関しては、是非、柔軟な姿勢を持っていただきたい。西普天間や那覇新都心の状況からすると普天間は少し時間がかかる可能性があり、柔軟に構えておかないと、時代の変化を受け止められない。また、基地周辺については、早期に着実に整備を進めていただきたい。
- ・ 3点目は、計画を実現するための準備であり、沖縄県の振興拠点の実現に向けて、先行的に土地を取得するという姿勢を強く持っていただきたい。公共用地のみに限らず、振興拠点についても先行的に取得することを市、県、国をあげてやっていただきたい。

■宮城委員：

- ・ 中間とりまとめの配置方針図は今後の検討により変わりうるという共通認識を持って、今回の行程計画等について理解していければと思う。
- ・ 極力、国や県が土地所有者となり、多くの土地を計画しやすいように努力すべきと強く感じた。将来の子どもたちのために、いいまちづくりを目指す我々の努力を子どもたちに伝えたい。

■宮園委員：

- ・ 県の主張大会において、宜野湾市の代表が「普天間の母親が感じる『ホント』の平和とは」の演題で県知事賞を受賞した。女性、母親として普天間のことを考えていることを主張でき、とてもよかった。
- ・ 災害があった時の一番の問題は水であり、公民館祭りで消防団が災害時の簡易トイレを持ってきたがとても良いアイデアと思った。
- ・ 会場内のパネルの新しい普天間に惹かれた。女性や高齢者等いろんな方のライフスタイルのイメージを展示していただきたい。自分たちの地域・普天間・宜野湾市をもっと良いまちにしていきたい。

■宮本委員：

- ・ 公共用地をできる限り多く取得することがないと、とりまとめしにくいのではないかな。
- ・ 早期返還が私たちの目標であり、できるだけ早く返還され、跡地利用の計画が進められるようにしてもらいたい。
- ・ 教育に関する取組はもっと具体的な形で活動ができるような場を作ってもらいたい。

■金城（美）委員代理：

- ・ 10年先、20年先の社会を作っていくのは今の子ども達であるため、例えば、若者の参画方法の一つとして、小学生～大学生から代表者を募り、話し合う・意見を交わすことができる、パネルディスカッション等の場を設けるのが一番良い。今回の会議の若者バージョンを実施していただきたい。
- ・ パネルは、普天間飛行場の場所の魅力がわかりやすく説明されていて、学校で展示ができたらいと思う。小学生がもう少し興味を持ってもらえるような工夫（イラスト入りのクイズ形式等）をしたパネルもあるとさらによい。

■仲村委員：

- ・ 副会長のため、現在検討されている内容をしっかり把握していきたい。

■大川委員：

- ・ 若手の会は、地主会や宜野湾市のサポートを受けて、活動しているが、20年経過し、活動が厳しくなっている現状はあるが、今後も地道に活動を継続していく。
- ・ 普天間飛行場の下に水が豊富にあると思うが、その水環境を目に見えるように示せるのか、今後に期待する。
- ・ 安全・安心に関する取組については、普天間飛行場の跡地に大規模公園を置くことを我々も望んでお

り、中南部広域の中心である普天間に他市町村も受け入れるような防災公園になるとよい。西普天間の医療拠点との連携があれば、さらによい防災公園ができるという期待をしている。

・まちづくりを盛り上げるために、高いレベルでの共通認識を持って、今後進めていただきたい。

■福治委員代理：

・基地の返還が決まらない中では、柔軟性をもって、技術革新の早さに負けないように沖縄振興拠点の創出に成果が出るように取り組んでいただきたい。

■金城（克）委員：

・普天間の跡地利用は、沖縄県における商業、教育、文化、生活拠点等の核になる場所であるので、推進会議の議論を踏まえながら、国・県・市で連携して、しっかりと進めてもらいたい。

■渡真利委員代理：

・IT 団体としては、現時点では提案はないが、様々な産業活動がなされる中で、IT 企業、DX、デジタル化等々の支援や連携等ができると思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

■又吉委員：

・これまで検討会議や推進会議で培ったことを共有し、合意形成を進めていくのかを次世代にバトンタッチすることが私の大きな責務だと思っている。委員の皆様も役職の任期が限られていると思うが、継承していただきたい。

・返還時期が見えていないからこそ、様々な議論をし、次の世代の若者たちが受け継ぐ大事な時期と捉えている。

■嘉陽委員：

・推進会議は年に 1 度しか実施されないため、その間どのような検討がされているのか把握できない。

・本日は、行程計画の見直しが大きい論点であったと思うが、抽象的な文言が多く具体的に何を検討するのか、その分野の専門家ではない委員にとっては非常に分かりにくい。

・資料送付が直前であり、資料確認の時間がなかった。推進会議が幅広く意見聴取する場であれば、少なくとも 1 週間程度前には資料送付をお願いしたい。

・議事録についても早めに提出してもらいたい。

■津波古委員代理：

・商業・産業振興の観点から、将来この地域を利用するであろう現在の小学生や中学生の職業を想定した上でまちづくりをしていくには、どのような産業を誘致するのか、どのような産業が成り立つ仕組みを作っていくのか等を検討することが必要だろう。

・小中学生に聞くのもよいが、保護者に対して、子どもにどのような仕事をしてもらいたいのか等を聞く機会があってもいいのではないか。将来、この地域に集積する産業を見越して、子どもたちの進学先を考えてもらえるような材料ができてくるのではないか。

・海外事例調査は参考になった。プロジェクトを推進するための中心となる人物が必要であるが、外部から連れてくるのではなく、内部の人員を育成するという観点で、視察だけでなく、プロジェクトに 1 年や 2 年の経験を積むという取り組みがあってもいいのではないか。

■真鳥委員代理：

・目標を定めて重点的に取り組む中で、観光に関連するのが「大規模公園エリアを核とした沖縄振興拠点の創出」と「歴史的資源・景観資源の継承」である。大規模な公園は、活用の仕方によっては、歴史的な観光資源を活用した県内外・国外の交流拠点が可能かと思う。

・現在、二次交通が問題となっており、県では、北谷町のアメリカンビレッジを交通拠点と位置付け、

公共交通機関で一旦北谷町まで運んでレンタカーへの乗り換え等を行う仕組みを検討しているところである。今沖縄が目指しているのは、持続可能な観光地を目指しており、経済、住民にも良い影響があり、環境にも優しいという視点から検討する必要がある。普天間の返還はまだ先の話ではあるが、先行事例等を踏まえ、普天間の跡地をどのようにした方がいいのかを検討し、沖縄振興計画にもそのあたりを反映できるのではないかと思う。

■名嘉座委員：

- ・長期にわたる計画であり、例えば、鉄軌道や交通環境も変わっていくので、柔軟に検討できる体制にしていきたい。
- ・産業振興の観点が見えづらかった。沖縄県の産業に大きな影響を与える事業であると思うため、広域的な観点でのシミュレーションを実施していただきたい。また既存の商店街に与える影響や連携による相乗効果等も検討してもらいたい。
- ・人材育成については、誰をターゲットとするのかを今後詰めて、大学や教育機関がどのような関わりになるのかも明確になるようにしていきたい。

■池田副会長：

- ・資料2 P6について、土地利用の目標・方向性の項目については、色付きの項目としてもらいたい。
- ・行程計画は、個別計画の集合体ようになっており、全体像が見えない。これまでやってきた緑や歴史を大事にし、人口目標を含めた産業を明確に示すことが必要である。一貫して揺るぎのない全体像を示してもらいたい。
- ・推進会議は、様々な団体の方に計画内容を推進してもらうことであるため、早めに、こまめに、わかりやすく情報共有する等やり方を工夫してもらいたい。

■猪鼻オブザーバー：

- ・返還に向けては長丁場となるが、まちづくりの検討自体は着実に一步一步進んでいると認識している。
- ・情報発信や若者の参画を進め、返還に向けて機運を高めてもらいたい。

■仲間オブザーバー：

- ・今後、普天間飛行場ははじめ大規模な返還が予定されており、沖縄の振興に大きく寄与するものとなるため、沖縄総合事務局では、内閣府と一体となって市町村支援の取り組みを進めているところである。市町村ヒアリングや、土地区画整理、文化財などの専門家の派遣、勉強会、セミナー等の開催、広報誌の発行を行っており、皆様方と連携を密にして取り組んでいく。

■西田会長：

- ・資料については、前回より充実していると感じた。
- ・委員からもあったが、推進会議も含めて、よりシステムティック、高度に検討を進めていく必要があると強く思う。検討会議との関係もまだわからないところもあるが、多くの方が集まって推進していくことを目標とすると、積極的にやっていくことが大事である。
- ・推進会議の資料説明においても、宜野湾市の取組や沖縄県の取組が明確になればなお良い。
- ・この場での議論や広報や教育に繋げることも、もっとシステムティックにやっていけるように、事務局には検討してもらいたい。
- ・推進会議の目的として、計画の推進に加えて広報も重要であり、広く、市民、県民に知っていただき、一緒に考えていく、活動するというのが、この会議のもう一つの重要な目的と考えている。その観点で海外事例調査結果についても、ワークショップやパネルディスカッションの場を作るなど、この会議の展開として、より発展できるよう検討してもらいたい。

以上